

带状疱疹ワクチンについて

皆さんは小さい頃に水ぼうそう(水痘)に感染したことはありますか？

実はこのウイルス、(水痘带状疱疹ウイルス)が成人の90%以上の方の身体の中の神経節に潜んでいて、加齢や過労、ストレスによる免疫力の低下が引き金となって80歳までに約3人に1人が带状疱疹になると言われています。

2016年には厚生労働省が、带状疱疹の予防目的で50歳以上の成人に水痘带状疱疹ワクチンを接種するように勧告を出しました。

带状疱疹は身体の左右どちらか一方に、最初はピリピリ、チクチクした痛み、その後に赤みを伴った小さな水ぶくれが神経節に沿って帯状にあらわれることから带状疱疹と名付けられました。

腕や胸、背中など多くは上半身に見られますが、顔や首などにあらわれる場合もあり、3～4週間ほど続きます。痛みはかなり強く、多くの場合、仕事や日常生活に支障をきたします。皮膚症状が治っても、50歳以上の患者さんの2割に重い後遺症(神経痛、失明、難聴、耳鳴り、めまいなど)が残ってしまう場合もあり、後遺症や重症化を防ぐためにも予防接種が推奨されています。

带状疱疹の予防接種は、発症を完全に防ぐものではありませんが、発症しても軽症ですみ、後遺症の予防につながるとされています。

帯状疱疹ワクチンは生ワクチンと不活化ワクチンの2種類あります。

2020年に使用開始となった不活化ワクチン（シングリックス）は、2016年からある水痘ワクチン（小児の水痘と同じもので帯状疱疹ワクチンとして使える生ワクチン）に比べると予防効果が高く、長期間効果が持続し、がんや膠原病などで免疫力が低下している方でも接種できる点が優れています。

生ワクチンは1回接種で発症予防効果約50～60%、不活化ワクチンは発症予防効果約97%以上とされています。

費用に関しては水痘生ワクチンに比べると不活化ワクチンのシングリックスは2回接種が必要で費用が高額となります。

しかし、帯状疱疹の治療費も決して安くはありません。感染して重症化した場合の入院費やその後の後遺症の治療費、生活の質の低下などを考えると予防が大切です。

お住まいの自治体によってはワクチン費用の助成を受けることができますので、役所や医療機関でご確認ください。